

いわみ
石見さんのお話し



いしどやま　ごかけ
石戸山の碁賭の勝負

「おーい火事やぞー、奥山が火事やぞー。」

激しい太鼓の音とともに、山番がわめきながら、新屋にやの村人達を火消しにかり立てました。

「また奥山が火事かいのー、この忙しいのにほんまにしょうのない」口々にこのことを言いながら鎌かまやナタをもって走り出して行きました。

このような出来事は、ずっと前から度々あったのですが、ことに最近では毎日のように起こるのでした。

村の人々が奥山と呼んでいる所は、正しくは石戸山のことたきぞで、薪たきぞや田の肥こやしにする草刈り場としての大切な山で、昔、新屋村が中心になり、外四ヶ村ほかがいっしょになって、米や金で久下庄くげしよから買い取ったものです。

けれども、時がたつにつれてこのような出来事は忘れられ、久下庄の人々は石戸が久下庄の谷にあり、川も久下側に流れ込んでいるから「いっはわしらの土地じゃ」とおおっぴらに薪や草を刈りに入るようになりました。

困り果てた新屋の者は山番を置き、見張りをすることにしましたが、なおも山へ入って来るので、山番とケンカが始まり、あげくのはてに

は、山に火を放って、いやがらせをしていがみ合っていました。

その頃、新屋庄にやしやうには石見守いわみのかみ、久下庄すくがのには駿河守かみというえらい殿様がおり、それぞれの村を治めていました。二人はたいそう碁ごが好きで馬が合い、お互いに行き来していました。

今日も今日とて、パチン、パチンと夢中で二人が碁を打っている最中に山火事騒ぎです。

「石戸が火事か、火事なら碁で消せ。」

「焼けたら石戸はまっ黒け。」

「碁石は黒い」

お互いに勝手な独り言を言って、火事を告げる太鼓の音も上の空でした。

その時、はたと、駿河守がひざを打ち、

「石見殿、今なんと言われた。」

「いや別に。」

「火事なら碁で消せと言われたであろうが。」

そうじゃ、いつまでも石戸山をこのままにして
いてはケンカがつきぬ。お互いに言い分はある
が碁で勝った者によって境を決めたらどうであ
ろうか。」

「うむ、それも方法かもしれん。しかし石戸は
買い取った山であるし今さら……」

と石見守は重たい返事をしましたが、外にこれ
といった良い思案も浮かびませんので、駿河守
の言うように決めました。

「それでは、お互いに気の変わらない内に…」
と、翌々日石戸山の原っぱで勝負をすることに
しました。

しかし、約束はしたものの、このところ石見
守は、三回に二回は駿河守に負けており、

「えらいことになった、負けでもすれば村人に
申し開きができん、どうしたものか。」と思案な
げ首になり、かねてから暮の相手をしている
村一番暮の強い家来に相談をしました。

すると家来は、

「心配はご無用に存じます。私におまかせ下さ
い、良い考えがあります。傘に小さな穴を開け
私が傘を持ちましょう、その穴から射す光を

碁盤ごばんにあてて、次の手をお教え致しましょう。

もし天气が悪くて日が射さねば、猪鹿いのしか、猪鹿と

申しますゆえ猪は前、鹿は横へ打っていただき
ます。山での事ゆえ猪鹿ぐらい言っても感づか
れません。猪と言えば『どこに』と問われれば
私が『二丁先にちやうせん、二丁先』とお答え申し上げます
これで必勝間違いありません。」

「なるほどのう、これは名案じゃ、うまく頼む
ぞ」万事打ち合わせがすみ、石見守は安心をし
てその夜は休みました。

当日は秋晴れのとつても良い日和になり、山
の木々は一段と美しく照り映えています。

石見守は家来をつれて、いそいそと石戸山へ

出かけました。打ち合わせたように傘をさして
みますと、秋の日が傘の穴から糸を引くように
碁盤の上に射してきます。首尾は上々、二人は
顔を見合わせにっこりしました。

そんな謀^{はか}り事があるとは知らぬ駿河守、むず
かしい顔をして碁盤をにらんでいます。

手合わせは三番勝負としましたが、先に二番
続けて石見守が勝ちました。

駿河守は、残念そうにため息をもらしました
が自分から言った手前、今更どうすることも出
来ません。石見守の言うように石戸山の境は決
められました。

久下庄の中には、不満を言う者もいましたが

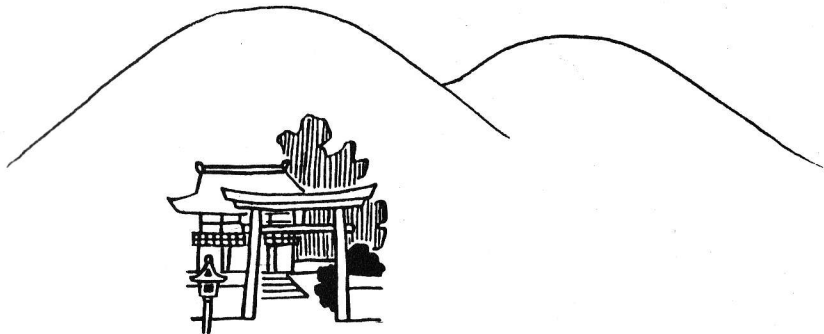
「殿様が良かれと思つてなされた事だ、いつまでもケンカをしていてもらちがあかん、仲よくするのが一番じゃ」と皆んな納得しました。

それから、石戸の山火事騒ぎもなくなり、両方の村人達はたいそう仲よくなりました。

今も石戸山には、山南町側から入ると、栗林の中に左大新屋おおにや、右柏原かいばらの道しるべがあり、その辺りが墓場と言われており、当時の面影が偲ばれます。

谷垣石見守は実在の人物であり、戒名は
新功院殿松山永昌大居士として、三宝寺の
境内にお墓があります。

新井村誌によると、1509年11月11日大新
屋名主、久下駿河守より石戸山を買受くと
あります。



新山管理組合